

## 「地域の拠点」と「ネットワーク」

### ■国土交通省

「重点施策」

## コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

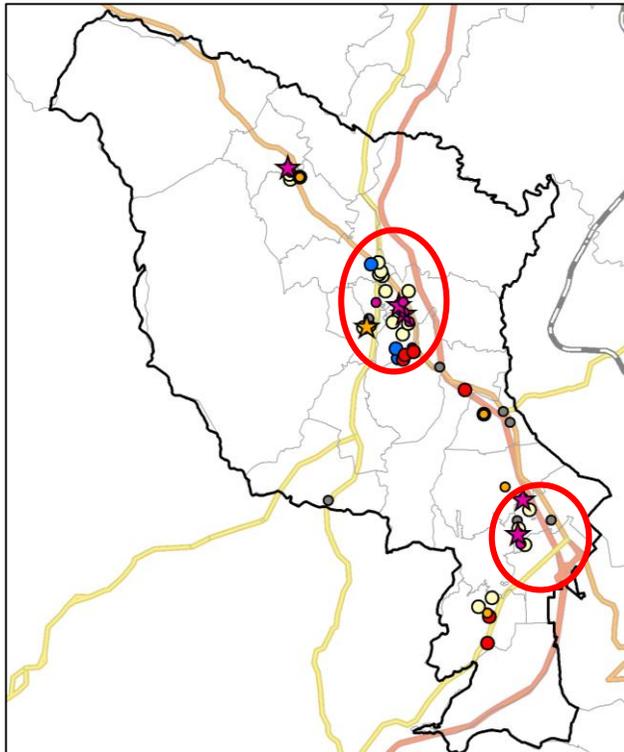
- 限られた資源の集中的・効率的な利用で、持続可能な都市・社会を実現

# 暮らしを支える機能の検討1

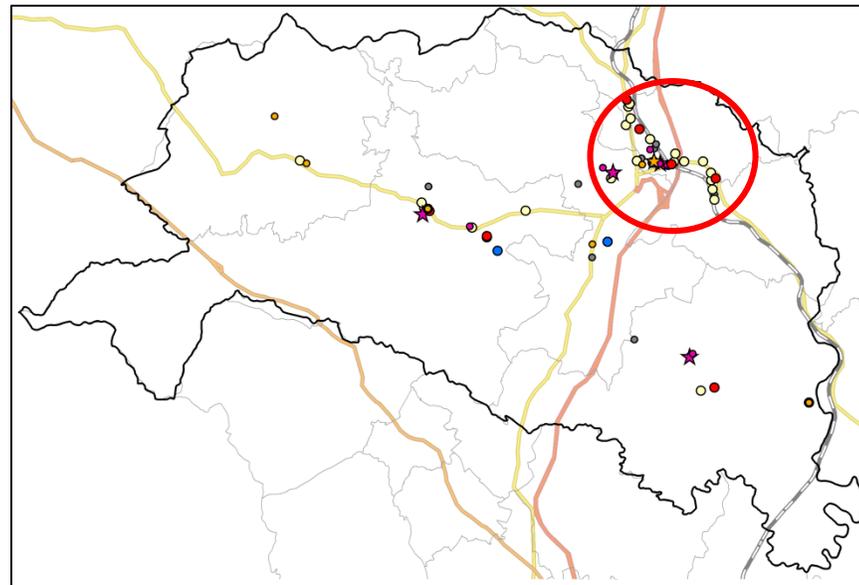
各地区(国分、隼人を除く中山間地域)の拠点(エリア)はすでに形成されている。

- ・各地区1~2の拠点エリアが形成されており、行政、交通結節点、買い物、医療・介護義務教育等の機能が存在し、域内での日常生活は完結できる。
- ・ふれあいバス(地区内コミュニティバス)等の交通手段はあるものの、自家用車に馴れた住民にとっては目的地に直行しないふれあいバスは不便なため利用は低迷。
- ・地区内完結のふれあいバスではなく、国分・隼人に乗り換えなしで行けるバスの希望がある。(かかりつけ医以外の受診、買い物等の需要)

溝辺地区



横川地区



凡例

行政系施設

★ 庁舎等

○ その他行政系施設

市民文化系施設

● 市民文化系施設

学校教育施設

★ 学校

● その他学校教育系施設

スポーツ・レクリエーション系施設

● スポーツ・レクリエーション系施設

公営住宅

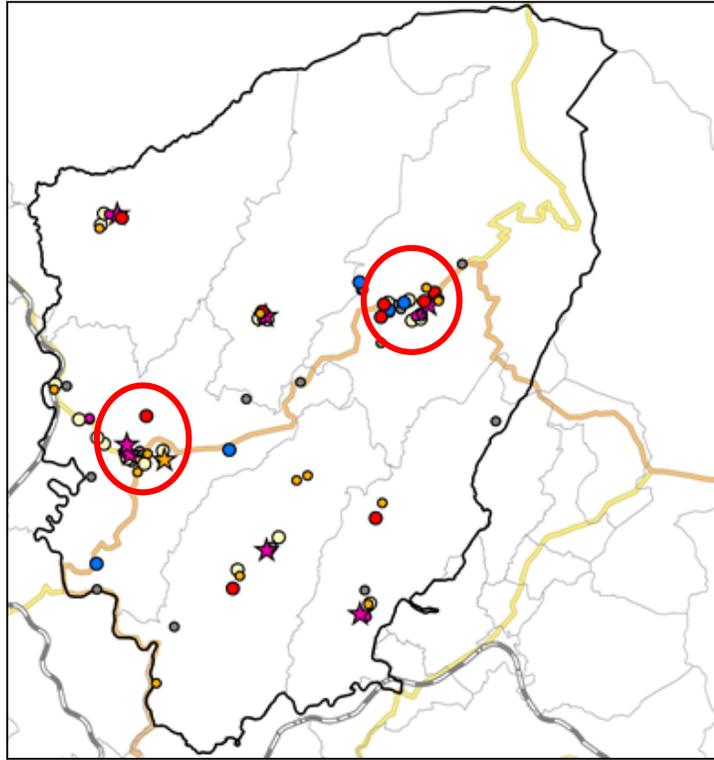
○ 公営住宅

その他

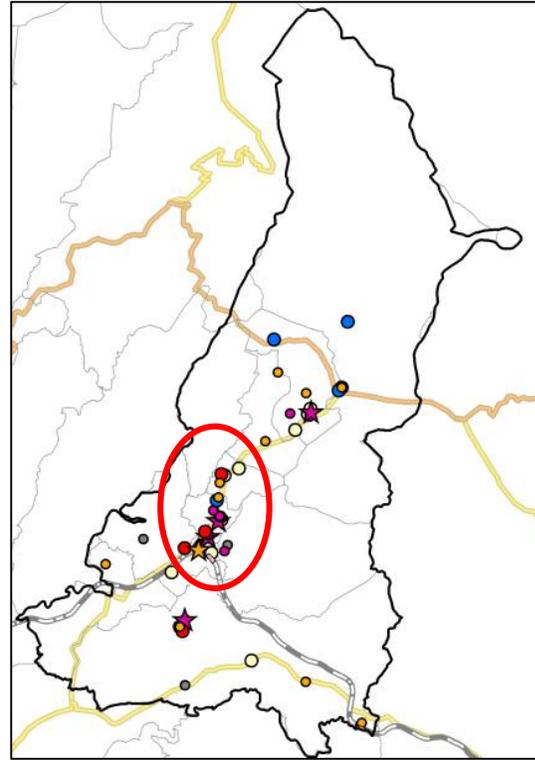
● その他

# 暮らしを支える機能の検討2

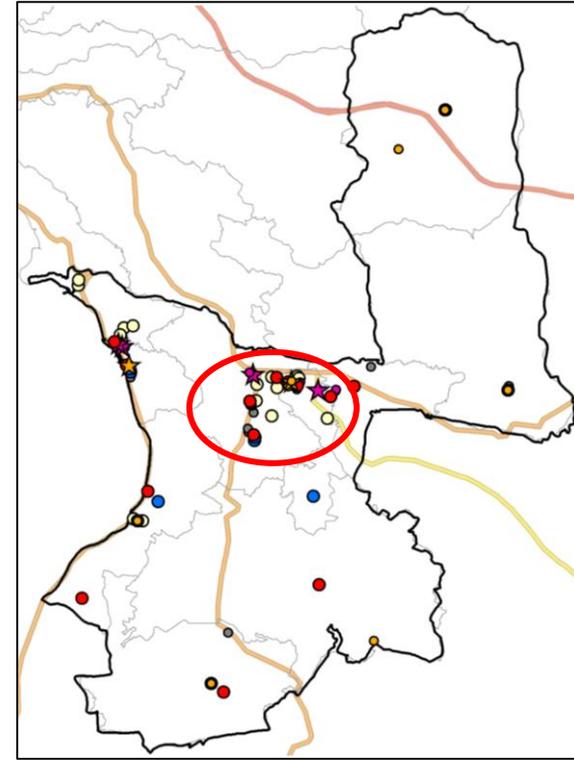
牧園地区



霧島地区

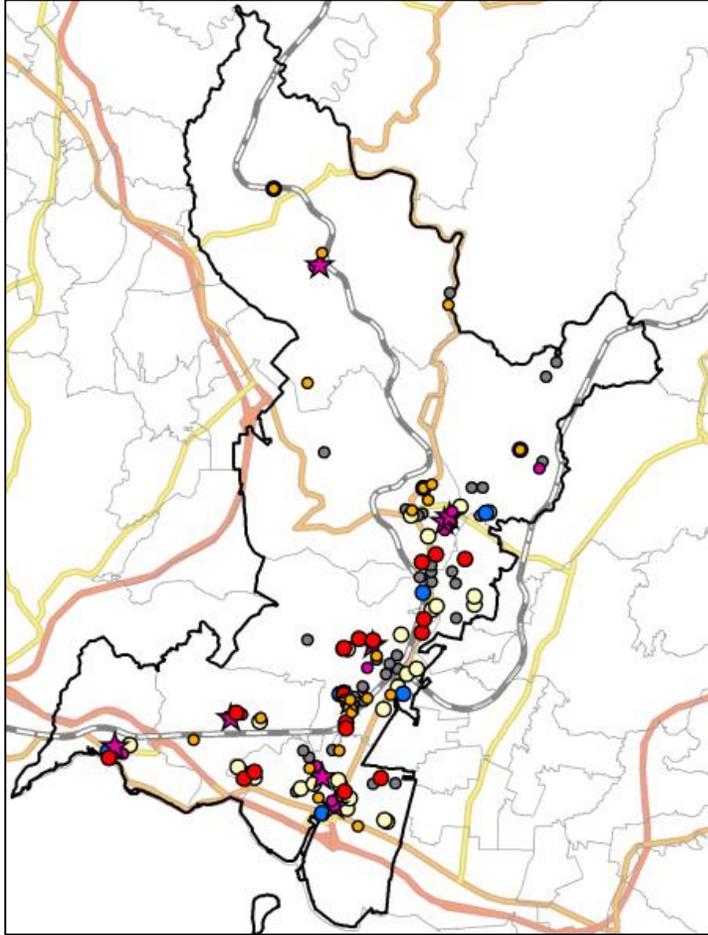


福山地区

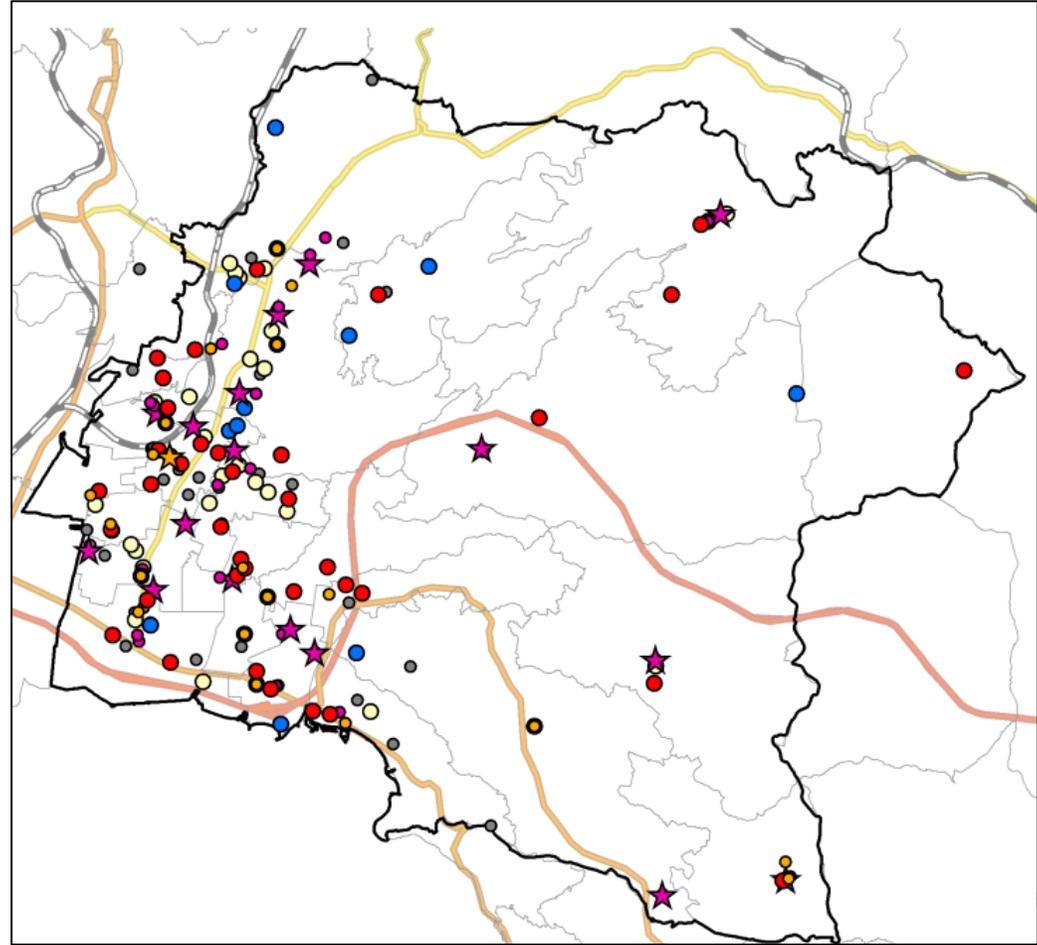


# 市街地の状況

隼人地区



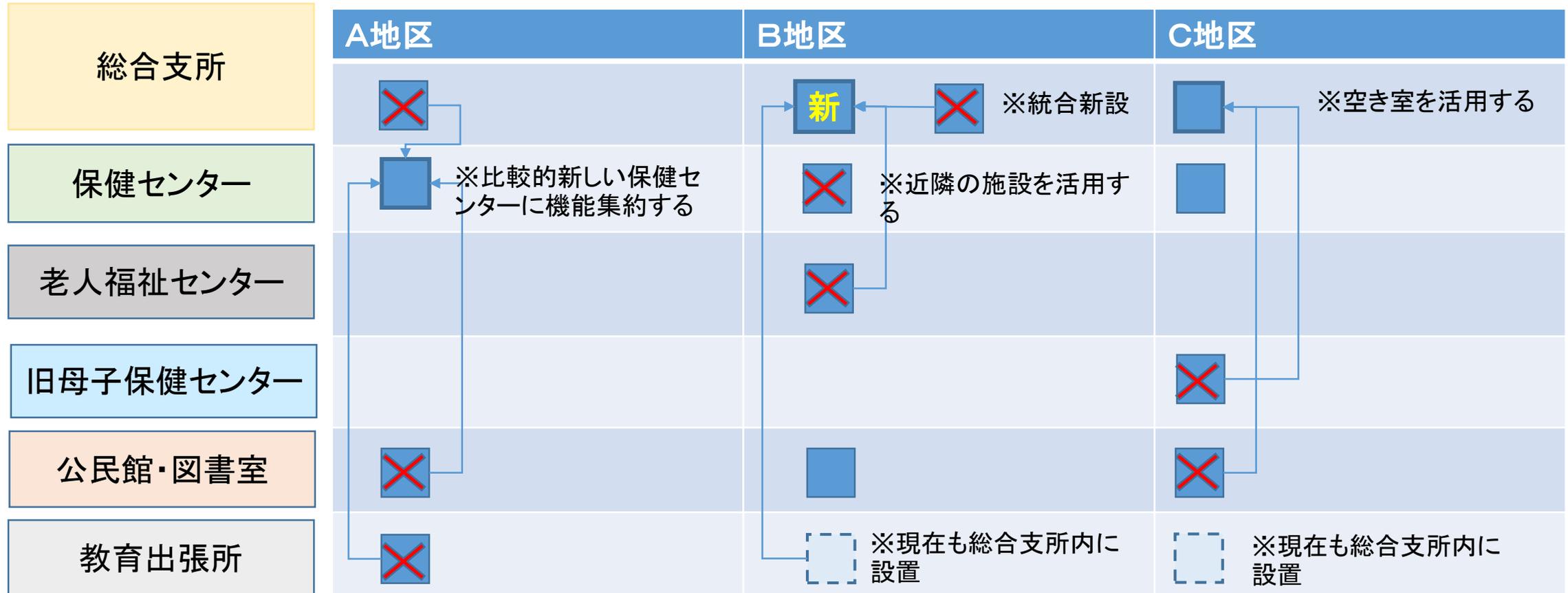
国分地区



機能の集積が広範囲で隣接している

# 機能の集約化・多機能化 I

- 単一機能の保健センターに、行政機能等を集約化する。(A地区)
- 新たに複合施設を建築し、機能を統合移転する。(B地区)
- 空き室のある総合支所に周辺の公民館・図書室を集約化し、多機能化を図る。(C地区)



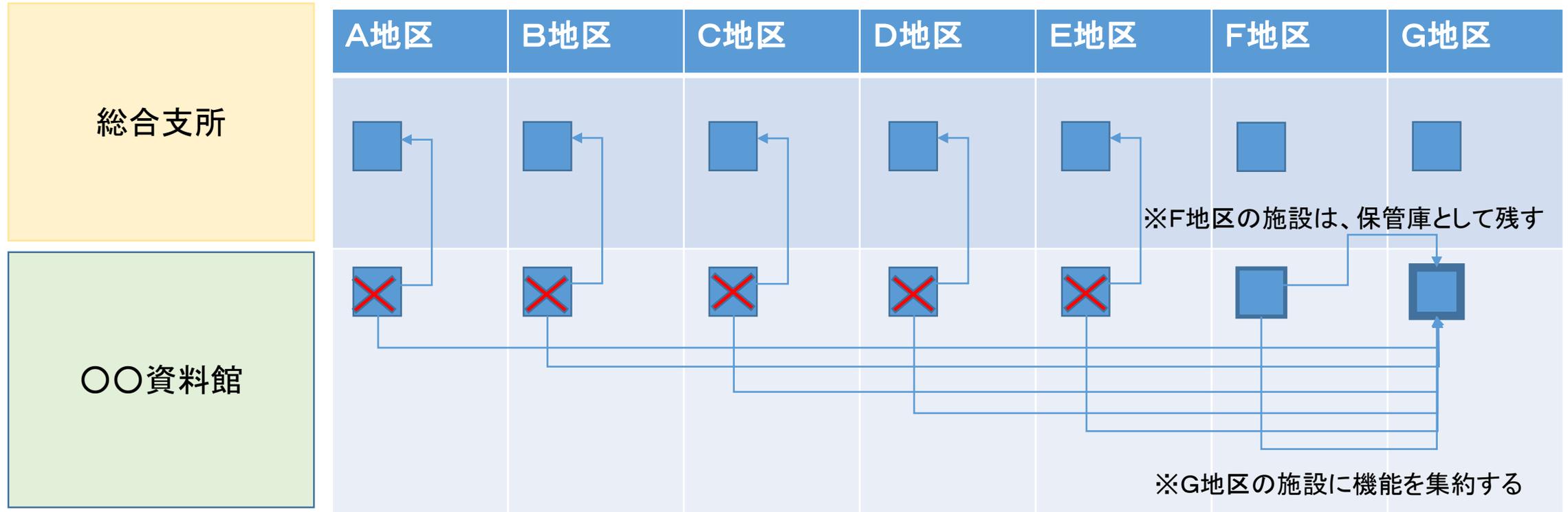
## 機能の集約化・多機能化Ⅱ

- 隣接する保健センター等へ公民館・図書室等の機能を集約する。(D地区)
- 公民館機能を、活性化センターに追加し多機能化を図る。(E地区)

	D地区	E地区
総合支所		
保健センター	 ※総合支所隣である立地を活かし、施設を多機能化する。	
温泉センター		
活性化センター		 ※活性化センターに機能集約する
公民館・図書室		
教育出張所		

## 機能の集約化・多機能化Ⅲ

- ▶ 各地域の特徴ある資料は、施設の複合化による総合支所等のスペースを活用し展示し、市全体としての資料は一つの施設にまとめる。



# 機能の転用

▶ 時代に沿った機能への転用を図る。

	F地区	G地区
〇〇の家	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保健センター	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
温泉センター	<input type="checkbox"/>	
活性化センター		<input type="checkbox"/>
図書館	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育出張所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※社会情勢の変化に伴い、施設のあり方を検討する。

※図書館機能は、図書室のあり方と併せて検討する